

「参考文献3」

第3章 「特殊な合成磁場」の利用技術,

水及び空気における試験、

可能な限り正確な種々の試験のデータが使用されている。

時間「 dt 」が限りなくゼロに近くされるとき、電磁誘導に関する「ファラデーの法則」による「 $E = -d\phi/dt$ 」によって、電子エネルギー「 E 」は無限に高水準電子エネルギーに近づく。

目次

第1節： 「特殊な合成磁場における流体の速度制御システム」の効果について、

第2節： 水と空気における「特殊な合成磁場」の使用技術について

第3節： 「特殊な合成磁場」の利用技術による水の酸化還元電位（ORP）の劇的な低下について、

第4節： 「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気の従来の技術では考えられないバクテリア（生きもの）の特性変化について、

第5節： 「トランスマスター」装置の水道水における一般細菌に関する殺菌効果のテストについて、

第6節： 「特殊な合成磁場」の使用技術による水が利用されたコンクリートについて、

第7節： エタノールは、「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気により有機廃棄物から作り出される。

第8節： 農業分野への「特殊な合成磁場」の利用技術について、

第9節： 漁業分野への「特殊な合成磁場」の利用技術について、

(2)

第10節： 「Eオイラー」と「トランスマスター」装置による特性変化と効果について

第11節： 「特殊な合成磁場」の利用技術による水が特に浴槽の水に使用される時

第12節： 「特殊な合成磁場」の利用技術による空気による「電磁空気清浄器」の特性変化や効果について

第13節： 「特殊な合成磁場」の利用技術による水による他のテストによる効果について

第1節： 「特殊な合成磁場における流体の速度制御システム」の効果について、

(a) 「参照文献1」と「参照文献2」の多くのテストが行われたとき、同様に水と空気の多くのテストは同時に行われた

したがって、「特殊な合成磁場」の使用技術により従来の技術と科学によっては考えられないくらい劇的に物理的に異なる特性変化と効果は、水と空気についてすでに得られた。

(b) 特に「特殊な合成磁場」の使用技術による最も大きい効果は、確実に常に「特殊な合成磁場における流体の速度制御システム」を用いて得られることができる。

(c) 特に、水と空気の「流体の速度制御システム」による効果は、革命的である。

(d) つまり、すでに記録され、従来の技術と科学では考えることができないくらい大きかったテスト効果を上回る革命的なテスト効果は、必ず得られる筈である。

(e) しかし最近、次々と、突然変異に起因する難病と従来の医療技術によってほとんど病気が直れることができないバクテリアとウイルスによる感染症が発生している。

(f) したがって、新しい医療と新しい治療法は、完全に新しい物理的な見解による水

(3)

と空気について「特殊な合成磁場」の使用技術によって開発されるかもしれない。

第2節：水と空気における「特殊な合成磁場」の使用技術について

(1) 従来の水（または空気）と「特殊な合成磁場」の使用技術による水（または空気）の基本的な違いについて、

(a) 「特殊な合成磁場」の使用技術によって、磁気による電子エネルギーは水と空気の原子に電磁誘導により誘導される、そして、その結果原則として、従来の電子エネルギーに起因する分子運動エネルギーと異なる磁気による大きい分子運動エネルギーは発生する。

(b) つまり、上記の磁気による電子エネルギーの特性は量子論の定義において従来の電子エネルギーの特性と基本的に異なる、すなわち、従来の電子エネルギーは主量子数として表される、そして、磁気による電子エネルギーは磁気量子数として表される。

(c) したがって、「特殊な合成磁場」の使用技術によって磁気による分子運動エネルギーを有する水（または空気）によって生きものに与えることができる酸化能力は、従来の電子エネルギーによる分子運動エネルギーを有するオゾンによって生きものに与えることができる酸化能力とは、全く異なる。

(2) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気によるバクテリア（または生きもの）の考えられない大きい特性変化について、

(a) 嫌気性菌（または生きもの）の活力は、「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気によって抑制されて、好気性細菌（または生きもの）の活力に関しては、それどころか、同時に大いに増やされる。

(b) すなわちあらゆる生物に危険な従来の紫外線やオゾンや放射線によらず「特殊な合成磁場」の利用技術による空気や水によって嫌気性の生物だけは殺菌される。同時に平行して逆に好気性の生物だけには強力な育成機能があたえられる。

(3) 物理的に異なる特性変化が「特殊な合成磁場」の使用技術により水と空気で劇的に発生する理由について、

(4)

- (a) 水と空気の酸素分子は、磁気による電子エネルギーが「特殊な合成磁場」の使用技術によって酸素原子に電磁誘導によって誘導され、そして、磁気による電子エネルギーが特に酸素原子に加えられた状態になる。
 - (b) 従って、磁気による電子エネルギーを有する酸素分子の運動エネルギーに関する視点によれば、従来の酸素分子とまったく異なる特性が、発生する。
 - (c) その上「特別な合成磁場」の使用技術によって、異なる電子エネルギーに起因する酸素分子の酸化機能は化学的变化だけによる酸素分子の従来の酸化機能と考えられないほど異なる。
 - (d) したがって、たとえ嫌気性菌（またはウイルス）の特性変化がD.N.Aの化学的な分子構造の変化によって発生するとしても、「特別な合成磁場」の使用技術による水と空気によれば、嫌気性菌（またはウイルス）の殺菌についての能力は原則として影響されることができない。
- (4) 化学薬品に依存しない「特殊な合成磁場」の使用技術による水による環境改善について、
- (a) 「特殊な合成磁場」の使用技術によると、物理的に異なる考えられない特性変化を有する大きい磁気による分子運動エネルギーは、水の分子に与えられることができる。
 - (b) 従って、「特殊な合成磁場」の使用技術は、化学薬品に起因する世界的な環境汚染を防止する新しい有効な手段になる。
- (5) 「特殊な合成磁場」の使用技術によって流体に与えられる磁気による分子運動のエネルギーに起因する劇的な粘性減少による日本工業標準規格（JIS）によるボール弁の問題点について、
- (a) 通常、「特殊な合成磁場」の使用技術によれば、大きい磁気による運動エネルギーは、燃料油に関する従来の技術と科学によって考えられないくらい大きく、燃料油の分子に発生する。
 - (b) したがって、「特別な合成磁場」の使用技術によって特にディーゼルエンジンに使

(5)

われる軽油によれば、軽油がボール弁のボールの部分の付近から漏れる現象は常に例外なく発生する、その結果、日本工業標準規格（JIS）のボール弁の仮締切能力は少し失われる。

- (c) 同様に、日本工業標準規格（JIS）のギアポンプで船舶エンジンに使われる重油「A」によれば、重油「A」がトラックで使われる軽油より高い粘度を持っているにも拘わらず、重油「A」が密封されている出力軸にもかかわらずギアポンプの出力軸から漏れる現象は発生する。

第3節：「特殊な合成磁場」のによる利用技術による水の酸化還元電位（ORP）の劇的な低下について

- (a) 「特殊な合成磁場」の使用技術である「トランスマスター」装置によって水を循環させるテストデータは、以下の通りに説明される。

- (b) テーブルとグラフの説明について、

- (b-1) 電磁気の水は、特に「トランス・マスター」装置を使った水として説明される。

- (c) 「トランスマスター」装置へのあらゆる繰り返された時の循環する水の変化について、

- (c-1) テスト条件

- (c-2) 頭-タンクの3リットルの水は電磁気の水の生成の「トランスマスター」装置の内部を通り抜けた、そして、水は1分につき10リットルのポンプで1分につき繰り返し3.3回の割合で「トランスマスター」装置の内部を通り抜けた。

- (d) テスト結果

- (d-1) 「トランスマスター」装置による「特殊な合成磁場」が水の「最も効果的切断速度」で切られるとき、水の酸化還元電位は従来の水によって考えられることができないくらい大いに減少する。

(d-2) 表 1 とグラフ

(d-3) 「トランスマスター」装置を通過する循環する時間が「T」で表されると仮定されるとき。

T= 0,の時 酸化還元電位 (ORP) : 6 4 0 m V (ミリボルト)

T= 125 分の時 酸化還元電位 (ORP) : 2 8 0 m V

(d-3-1) 表 2 のテストは、「表 1 とグラフ」のテストに続いて行われた。

(d-4) テーブル 2 とそのグラフ

(d-4-1) 「トランスマスター」装置が 1 2 0 分間だけ運転した後に停止されたとき、停止状態の直後から、時間の経過に従い、多くの時間において ORP の数値は測定された。

(d-4-2) テーブル 2 とそのグラフに関しては、3 4 分と 2 4 時間後の ORP は 2 0 0 mV にすでに達した、そして、さらに 4 分と 7 5 時間後～4 分と 7 6 時間後の ORP は 1 8 0 mV の最小値に達した。

(d-4-3) したがって、上記の 1 8 0 mV の ORP の数値は、従来の水処置技術によれば全く考えられないとても少ない数値である。

(d-4-4) テーブル 2 とそのグラフの中で「1 2 0 秒」に注意を払ってください、「1 2 0 秒」はミスプリントである、したがって、正しい表現は「1 2 0 分」である。

(d-4-5) 同様に、水だけでなく空気も、「特殊な合成磁場」によって従来の技術と科学によって考えられないとても大きな特性変化を生み出すことができる。

(d-5) 尚、1 0℃に達したテスト水の温度はギアポンプによる熱生成に起因すると考えられる。

(7)

トランスマスター循環水に関する
基礎的試験について

平成 24 年 8 月



株式会社 総 合 開 発

(8)

テスト装置



(A) 「表 1」 のデータ

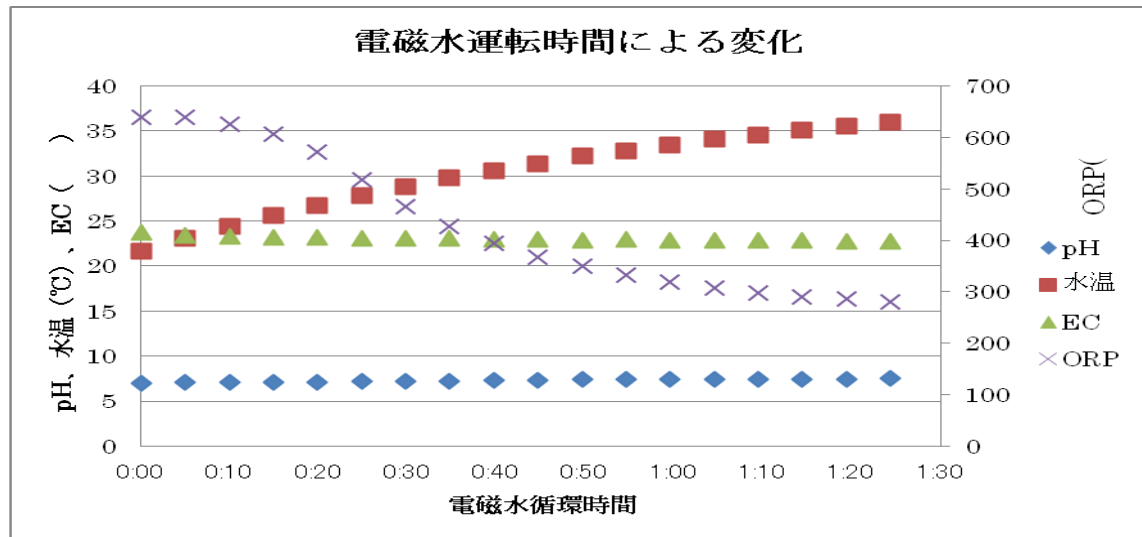
(a) 水が「トランスマスター」装置に循環するとき、水の多くの通過時間の ORP の変化は以下の様に測定された。

「表 1」のデータ

経過時間	水温 ℃	pH		水温 ℃	EC mS/m		水温 ℃	ORP mV
0:00	21.7	6.94		21.5	23.7		21.7	639
0:05	23.1	7.06		23	23.4		23.1	639
0:10	24.4	7.1		24.2	23.3		24.4	626
0:15	25.6	7.12		25.5	23.2		25.6	606
0:20	26.7	7.14		26.6	23.2		26.8	571
0:25	27.8	7.2		27.7	23.1		27.9	518
0:30	28.8	7.24		28.7	23.1		28.9	466
0:35	29.8	7.21		29.7	23.1		29.8	427
0:40	30.6	7.29		30.5	23		30.7	394
0:45	31.4	7.34		31.3	23		31.5	368
0:50	32.2	7.4		32.1	22.9		32.2	350
0:55	32.8	7.42		32.7	23		32.9	332
1:00	33.5	7.42		33.4	22.9		33.5	319
1:05	34.1	7.38		34	22.9		34.1	308
1:10	34.6	7.43		34.5	22.9		34.6	297
1:15	35.1	7.46		35	22.9		35.1	290
1:20	35.6	7.48		35.5	22.8		35.6	287
1:25	36	7.52		35.9	22.7		36	280

(B) 「表 1」 のグラフ

「表 1」 のグラフ : 1

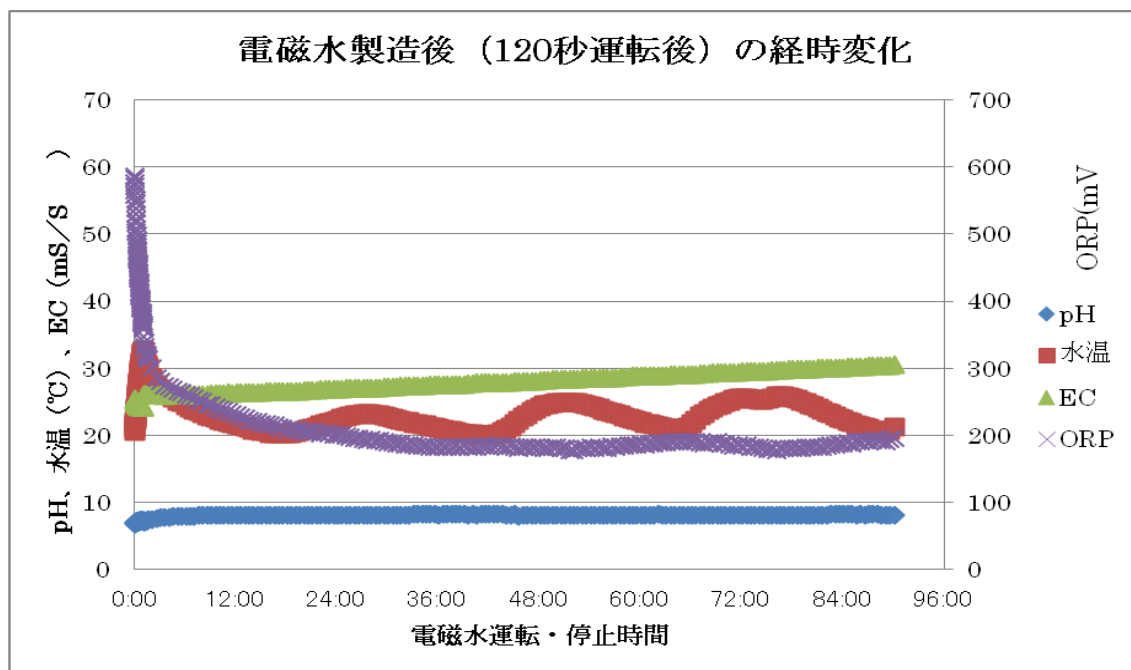


(C) 「表 2」 のデータ

- (a) 1 時間と 2 5 分後に、ギアポンプは停止された、そして、循環する水がまた止められたあと、多くの時間の経過で循環する水のいろいろな性質は調査されデータは「表 2」で示された。
- (b) 「表 2」のデータの詳細は省略する。
- (c) 「水-pH」と「水温-EC」と「水温-ORP」は、0 から 0 4 分 : 9 0 時間まで各経過時間に測定された。

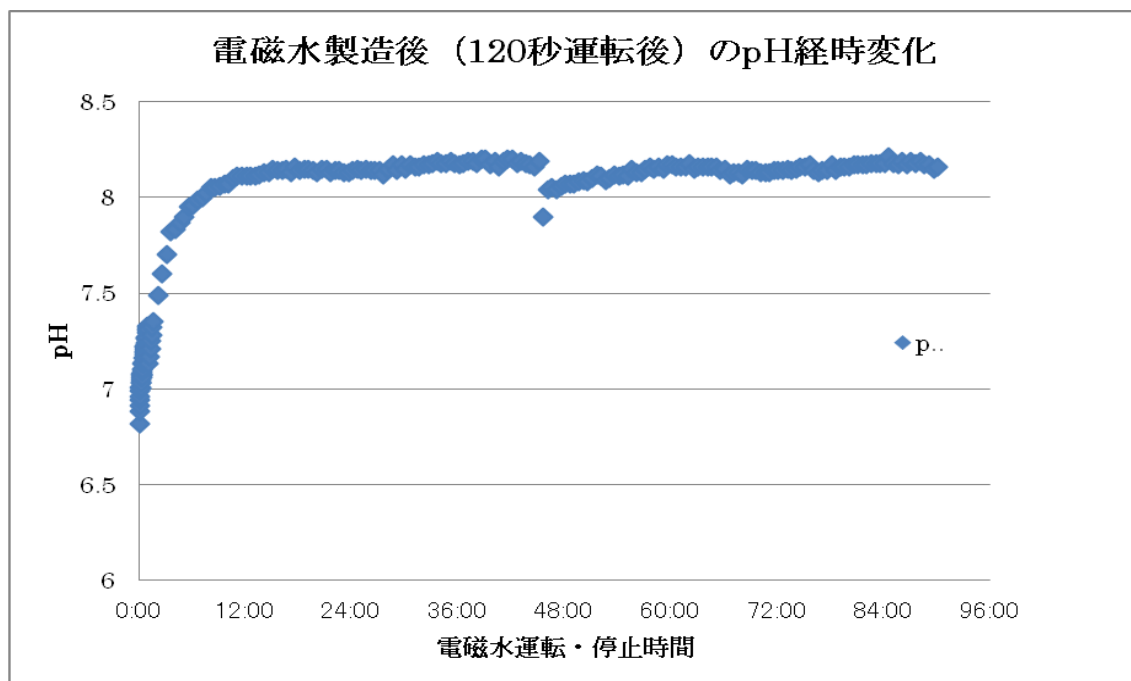
(D) 「表 2」 のグラフ

「表2」のグラフ：1



(注意!) 上記のグラフ中の（120秒運転後）は（120分運転後）の誤りである。

「表2」のグラフ：2



(注意) 上記のグラフ中の（120秒運転後）は（120分運転後）の誤りである。

第 4 節： 「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気における従来の技術では考えられないバクテリア（生きもの）の特性変化について、

- (a) 「参考文献 3」の多くのテストによると、好気性細菌の増殖能力と嫌気性菌の殺菌能力による効果は、同時に「特殊な合成磁場」の使用技術によって、水と空気によって初めて成し遂げられることができた。
- (b) すなわち、嫌気性菌と生きもの（腐敗菌）は選択的に、自動的に殺菌される、同時に、平行して好気性細菌と生きもの（酵母菌）増殖は「特殊な合成磁場」の技術に起因する酸素分子によって選択的に、自動的に進められた。
- (c) すなわち、「特殊な合成磁場」の使用技術による、水と空気だけによって紫外線とオゾンと放射線を使うことなく、嫌気性菌だけは、選択的に殺菌されることができた。
- (c) さて従来の殺菌技術によれば嫌気性バクテリア（または生きものと細胞）と好気性バクテリア（または生きものと細胞）に関係なく紫外線とオゾンと放射線によれば、あらゆるバクテリア（または生きものと細胞）は殺菌される。
- (d) 上述の通り「特殊な合成磁場」の使用技術によれば、嫌気性バクテリア（または生きものと細胞）と好気性バクテリア（または生きものと細胞）に関係なく水と空気だけによって、あらゆるバクテリア（または生きものと細胞）が殺菌されることが考えられる。
- (e) たとえば、特に、口蹄病のような、そして、水と空気に起因して感染する家畜の鳥インフルエンザのような嫌気性菌（生きものや細胞）に起因する感染症の蔓延は、抑制されるかもしれない。
- (f) したがって、それが「特殊な合成磁場」の使用技術によって水と空気を用いてすべての動植物の従来の生活環境で画期的な大きい衛生的な予防効果を得ることができると考えられる。
- (g) 上記のように、「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気によれば、従来の環境技術の、そして、医療技術の新しい考えられない程の物理的な見解による画期的な基本的な技術があらゆる産業の分野で現実化されることが考えられる。

第5節：「トランスマスター」装置の水道水における一般細菌に関する殺菌効果のテストについて、

- (a) (財団法人) 北陸保健衛生研究所は、共伸工業株式会社から「トランスマスター」装置 による殺菌能力テストを依頼された。
- (b) 1999年4月1日～4月5日における「トランスマスター」装置による殺菌テストである。
- (c) 「トランスマスター」装置は初回の試作品であり利用された水は特に超活性水と称した。
- (d) 殺菌テストの方法について、
 - (d-1) 一度だけ、「トランスマスター」装置に通された水の細菌数は、従来の水の中で細菌数と比較される。
- (e) 「特殊な合成磁場」の使用技術によって水の公共検査組織によって「トランスマスター」装置に通過された水の中のバクテリアを殺菌することができる事が証明された。

No. 1

試験（検査）報告書

石川県松任市横江町544番の1
共伸工業株式会社
TEL (076) 275-3 1 4 1

厚生大臣指定水質検査機関（厚生省環229号）
環境庁長官指定温泉分析機関
石川県登録計量証明事業所（第13号）
石川県登録衛生検査所（第14号）

財団法人 **北陸保健衛生研究所**

〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目20-3
TEL 076-251-1238
FAX 076-251-1058

(14)

以下は、「トランスマスター」TM-1 通過されている仕事の前のテストデータである。

試験結果は、最初のアイテム (1) の「一般細菌」としてシート No.1 で表される。

No. 2

(3)

以下は「トランスマスター」装置 TM-1 の通過前のテスト資料である

(1) 最初の項目「一般細菌」についてのテストである。

水質試験 (検査) 結果書

No. A15012

依頼者住所・氏名	住所 松任市横江町544-1 氏名 共伸工業(株)				
試料の種類	上水道 浄水				
採水地点	TM-1 通過前				
採水年月日	平成 11 年 4 月 1 日	時間	天 候	前日	当日
採水者	氏名 所属 共伸工業(株) 社員				
水 温	℃		気 温	℃	
① 一般細菌	24 /ml	100 /ml以下	③ 亜 鉛	0.03 mg/l	1.0 mg/l 以下
② 大腸菌群	陰性	検出されないこと	④ 鉄	0.03 mg/l 未満	0.3 mg/l 以下
③ カドミウム	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	⑤ 銅	0.05 mg/l	1.0 mg/l 以下
④ 水 銀	0.0005 mg/l	0.0005 mg/l 以下	⑥ ナトリウム	200 mg/l	200 mg/l 以下
⑤ セ レ ン	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	⑦ マ ン ガ ン	0.05 mg/l	0.05 mg/l 以下
⑥ 鉛	0.05 mg/l	0.05 mg/l 以下	⑧ 塩素イオン	6.8 mg/l	200 mg/l 以下
⑦ ヒ 素	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	⑨ カルシウム・マグネシウム等(硬度)	32.9 mg/l	300 mg/l 以下
⑧ 六価クロム	0.05 mg/l	0.05 mg/l 以下	⑩ 蒸発残留物	500 mg/l	500 mg/l 以下
⑨ シ ア ン	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	⑪ 酸素消費活性剤	0.2 mg/l	0.2 mg/l 以下
⑩ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.41 mg/l	10 mg/l 以下	⑫ 1,1,1-トリクロロエタン	0.3 mg/l	0.3 mg/l 以下
⑪ フ ッ 素	0.8 mg/l	0.8 mg/l 以下	⑬ フェノール類	0.005 mg/l	0.005 mg/l 以下
⑫ 四塩化炭素	0.002 mg/l	0.002 mg/l 以下	⑭ 有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	0.7 mg/l	10 mg/l 以下
⑬ 1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/l	0.004 mg/l 以下	⑮ pH 値	7.2	5.8以上8.6以下
⑭ 1,1-ジクロロエチレン	0.02 mg/l	0.02 mg/l 以下	⑯ 味	異常なし	異常でないこと
⑮ ジクロロメタン	0.02 mg/l	0.02 mg/l 以下	⑰ 臭 気	異常なし	異常でないこと
⑯ ジス1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l	0.04 mg/l 以下	⑱ 色 度	0.6 度	5 度 以下
⑰ テトラクロロエチレン	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	⑲ 濁 度	0.1 度 未満	2 度 以下
⑱ 1,1,2-トリクロロエタン	0.005 mg/l	0.005 mg/l 以下	⑳ 残留塩素	0.2 mg/l	0.1mg/l 以上
㉑ トリクロロエチレン	0.03 mg/l	0.03 mg/l 以下	㉒ アンモニア性窒素	mg/l	指 導 項 目
㉒ ベ ン ゼ ン	0.01 mg/l	0.01 mg/l 以下	㉓ 有機リン	mg/l	
㉓ ク ロ ロ ホ ル ム	0.06 mg/l	0.06 mg/l 以下			
㉔ ジブromクロロメタン	0.1 mg/l	0.1 mg/l 以下			
㉕ ブロモジクロロメタン	0.03 mg/l	0.03 mg/l 以下			
㉖ ブロモホルム	0.09 mg/l	0.09 mg/l 以下			
㉗ 総トリハロメタン	0.1 mg/l	0.1 mg/l 以下			
㉘ 1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/l	0.002 mg/l 以下			
㉙ シマジン(CAT)	0.003 mg/l	0.003 mg/l 以下			
㉚ チ ウ ラ ム	0.006 mg/l	0.006 mg/l 以下			
㉛ チオベンカルブ	0.02 mg/l	0.02 mg/l 以下			
検査年月日	平成 11 年 4 月 1 日	検査者	平成 11 年 4 月 5 日		
検査機関	財団法人 北陸保健衛生研究所 松任市横江町544-1 2F TEL.(076)251-1238				
検査責任者					

以下は「トランスマスター」装置の1回通過後のテストデータである

(1)「一般細菌」の最初の項目についてのテストであ

水質試験(検査)結果書

No. A15013

依頼者住所・氏名	住所 松任市横江町544-1 氏名 共伸工業(株)				
試料の種類					
採水地点	TM-1 通過後 超活性水				
採水年月日	平成 11 年 4 月 1 日	時 刻	天 候	前 日	当 日
採水者	氏名 所属 共伸工業(株) 社員				
水 温	℃		気 温	℃	
① 一般細菌	2 /ml	100 /ml以下	30 亜 鉛	mg/l	1.0 mg/l以下
② 大腸菌群	陰性	検出されないこと	① 鉄	0.03 mg/l 未満	0.3 mg/l以下
3 カドミウム	mg/l	0.01 mg/l以下	32 銅	mg/l	1.0 mg/l以下
4 水 銀	mg/l	0.0005mg/l以下	33 ナトリウム	mg/l	200 mg/l以下
5 セ レ ン	mg/l	0.01 mg/l以下	34 マ ン ガ ン	mg/l	0.05 mg/l以下
6 鉛	mg/l	0.05 mg/l以下	③ 塩素イオン	6.9 mg/l	200 mg/l以下
7 ヒ 素	mg/l	0.01 mg/l以下	④ カルシウム・マグネシウム等(硬度)	32.9 mg/l	300 mg/l以下
8 六価クロム	mg/l	0.05 mg/l以下	37 蒸 気 残 留 物	mg/l	500 mg/l以下
9 シ ア ン	mg/l	0.01 mg/l以下	38 陰イオン界面活性剤	mg/l	0.2 mg/l以下
④ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.38 mg/l	10 mg/l以下	39 1,1,1-トリクロロエタン	mg/l	0.3 mg/l以下
11 フ ッ 素	mg/l	0.8 mg/l以下	40 フ ェ ノ ール 類	mg/l	0.005 mg/l以下
12 四塩化炭素	mg/l	0.002 mg/l以下	④ 有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	0.5 mg/l	10 mg/l以下
13 1,2-ジクロロエタン	mg/l	0.004 mg/l以下	④ p H 値	7.2	5.8以上8.6以下
14 1,1-ジクロロエチレン	mg/l	0.02 mg/l以下	④ 味	異常なし	異常でないこと
15 ジクロロメタン	mg/l	0.02 mg/l以下	④ 臭 気	異常なし	異常でないこと
16 シス1,2-ジクロロエチレン	mg/l	0.04 mg/l以下	④ 色 度	0.6 度	5 度 以 下
17 テトラクロロエチレン	mg/l	0.01 mg/l以下	④ 濁 度	0.1 度 未 満	2 度 以 下
18 1,1,2-トリクロロエタン	mg/l	0.006 mg/l以下	残 留 塩 素	0.2 mg/l	⑤ 0.1mg/l以上
19 トリクロロエチレン	mg/l	0.03 mg/l以下	アンモニア性窒素	mg/l	指 導 項 目
20 ベ ン ゼ ン	mg/l	0.01 mg/l以下	有機リン	mg/l	
21 クロロホルム	mg/l	0.05 mg/l以下			
22 ジブロモクロロメタン	mg/l	0.1 mg/l以下			
23 ブロモジクロロメタン	mg/l	0.03 mg/l以下			
24 ブロモホルム	mg/l	0.09 mg/l以下			
25 三トリハロメタン	mg/l	0.1 mg/l以下			
26 1,3-ジクロロプロペン	mg/l	0.002 mg/l以下	判		
27 シマジン(CAT)	mg/l	0.003 mg/l以下			
28 チ ウ ラ ム	mg/l	0.006 mg/l以下	定		
29 チオベンカルブ	mg/l	0.02 mg/l以下			
検査年月日	平成 11 年 4 月 1 日	平成 11 年 4 月 5 日			
検査機関	財団法人 北陸保健衛生研究所 松任市横江町544-1 2F TEL (076) 251-1238				
検査責任者	  				

(e) 結論

(e-1) 上水の一般細菌の数は「トランスマスター」装置を使用されなかった時は 2 4 個/ml であった。

(e-2) 「トランスマスター」装置が使われたあと、同じ飲料水の細菌数は、2 個/ml に減少した。

(f) その他の殺菌テストについて

(f-1) 「北陸電力社の技術開発研究所」による「トランスマスター」装置により 2 4 時間の連続使用が可能な浴槽の水のレジオネラ菌や緑膿菌の殺菌テストについて。

(f-2) 上記の殺菌テストの目的は、2 4 時間連続して浴槽の水を使うために「トランスマスター」装置の殺菌能力の効果を基本的に確かめる事になっていた。

(f-3) しかしながら実施された「トランスマスター」装置の水による殺菌テストは知らず知らずに殺菌剤の等しい殺菌試験方法で実施された。

(g) テスト方法

(g-1) レジオネラ菌株と緑膿菌株は、生理食塩水に混入される。

(g-2) 浴槽の水のテストは、法的に殺菌薬の同じ条件で検証された。

(h) テスト結果

(h-1) 各々のバクテリアの繁殖は若干の範囲まで抑えられた、しかし、バクテリアの数は法的規制で満足な殺菌薬と等しい数まで減少することができなかった。

(h-2) 従って、法律で確立された殺菌能力が「トランスマスター」装置で水の中に存在しないと判断された。

(i) 「トランスマスター」装置の改善

(i-1) 「トランスマスター」装置自体の能力の改善と「トランスマスター」装置の使用法の改善は、上記の 1 9 9 9 年のテスト以来、1 6 年後に現在では既に現実になった。

(i-2) すなわち、「トランスマスター」装置による水の殺菌能力は、「特殊な合成磁場」における流体速度の制御技術によって最も強くなった。

下の写真は、「トランスマスター」ユニットの外観である。



第 6 節 ： 「特殊な合成磁場」の使用技術による水がコンクリートに使用される時

(1) 「特殊な合成磁場」の利用技術の水によるコンクリートの概略

(a) 鉄筋コンクリートの強度は大いに増大する。

(a-1) さて、鉄棒の酸化が防止されるので、施設と建物の鉄筋コンクリートの耐震性と耐候性能力は大いに増やされる、そして、施設と建物の寿命は改善されて、大いに増やされる。

(b) コンクリートの固化反応は大きく促進され、その結果コンクリートの固化時間は

大幅に短縮される。

(b-1) 型からコンクリートの二次製品を取り出す時間は短くなる、そして、コンクリートの二次製品の生産効率は上昇される。

(c) また、コンクリートの強さは大いに増やされる、そして、その結果、コンクリートの二次製品の作業性は簡単になることができる、さらに、コンクリートに加えられる「水を減少させる薬」は大いに減少することができるか、完全に不必要になることができる。

(c-1) したがって、「特殊な合成磁場」の使用技術による水は、コンクリートの二次製品に混ぜられる「水を減少させる薬」や「水を減少させる AE 薬」に起因する環境汚染の防止に資することができる。

(c-2) 「特殊な合成磁場」の利用技術による水の効果が 4 0 ～ 5 0 時間の間にほぼ低下なしで保たれたあと、上記の「トランスマスター」装置の影響は速く減少する。

(c-3) したがって、時間が 4 0 ～ 5 0 時間過ぎたあと、特性変化による水は再び完全な従来の水に戻り「トランスマスター」装置による環境へのあらゆる影響は完全に消される。

(2) 「特殊な合成磁場」の利用技術による水によるコンクリートの詳細は、以下の通に説明される。

A. 従来の液体コンクリートの水の混入割合による流動性と対策について、

(a) 液体コンクリートの水の最小限の量が高い強さのコンクリート製品を生産するために使われることは、コンクリートの基本的な技術である。

(b) 液体コンクリートの水の量がコンクリートの強度のために制限されるので、必要とされる最小限の流動性が欠陥部分なしのコンクリートの二次製品のために前もって液体コンクリートに与えられることは、非常に重要である。

(c) したがって、一般的なコンクリートの混合比率によって液体コンクリートが型

へ投入されて、現状のまま固められるならば、致命的な欠陥は必然的にコンクリートの二次製品に発生する。

- (d) 従来は、「水を減少させる薬」と「水を減少させる AE 薬」のような化学薬品が液体コンクリートに混入されて、現状のまま使われる。
- (e) 従って必要な最小限の流動性は液体コンクリートに与えられる、その結果、「仕事の容易さ」は高められる、そして、欠陥部分のないコンクリートの二次製品の生産は可能になる
- (f) また従来の液状コンクリートにおいては、水は液体コンクリートから切り離されて、液体コンクリートの上で集まって、「浮水」が発生する。
- (g) 上記の化学薬品に起因する「水を減少させる薬」と「水を減少させる AE 薬」の様な大量の化学薬品がコンクリートの二次製品のために使われているので、コンクリートの二次製品のための化学薬品による環境汚染の拡大は今日恐れられている。
- (h) しかし、「特殊な合成磁場」の使用技術による「トランスマスター」装置がコンクリートの二次製品の水のために使われるので、「水を減少させる薬」と「水を減少させる AE 薬」の様な化学薬品に起因するコンクリートの二次製品のための化学薬品による環境汚染の拡大は妨げられることができる。

B. 「トランスマスター」装置による「特殊な合成磁場」の使用技術による液体コンクリートの特性変化について、

- (a) 「特殊な合成磁場」の使用技術による「トランスマスター」装置の技術は、磁気による大きい分子運動エネルギーが水の分子に与えられる異なる次元における劇的な物理的な現象を利用することによる技術である。
- (b) さて「トランスマスター」装置での液体コンクリートの水によると、磁気による水の分子運動エネルギーは大いに増加する、したがって、液体コンクリートの粘性は従来の液体コンクリートによって考えられることができないくらい劇的に減少する。

(20)

- (c) したがって、液体コンクリートの粘性の大きい低下によって、水とセメントの粒子は、建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面のあらゆる小さい隙間に侵入することができて、すべての小さいギャップの内部に保たれる。
 - (d) すなわち、「浮水」は消失し液体コンクリートの水の量は事実上不足の状態となる。
 - (e) したがって、水が建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面のあらゆる小さいギャップに侵入するので、水の量は大いに減少する、そして、その結果、液体コンクリートの「仕事の容易さ」は非常に悪くなる。
 - (f) したがって、液体コンクリートの「仕事の容易さ」が非常に悪くなるので、コンクリートの二次製品は欠陥なしで製造されることができない。
- C. 「トランスマスター」装置への通過回数が「浮水の変化点」が現れる通過回数を超えている状態で更に増やされるとき、
- (a) ところで、「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数が「浮水の変化点」の繰り返し通過回数を超えるに従って、液体コンクリートの「浮水」は再度増加し始める。
 - (b) 例えば、「トランスマスター」TMH-1 が液体コンクリートの水に使われるとき、「浮水の変化点」の「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数は40回である。
 - (c) したがって、液体コンクリートの「仕事の容易さ」は「浮水」の増加によって改善される、そして、最後に、液体コンクリートの「浮水」の状態は再び元の状態に戻る。
 - (d) 上記の状態の液体コンクリートが型に入れられる、そして、コンクリートの二次製品が製造されるとき、欠陥部分なしで考えられないほど非常に高い強度を有するコンクリートの二次製品は生産されることができる。
- D. 条項 C. の条件における「特殊な合成磁場」の使用技術による「浮水」の特性変化について、

- (a) 液体コンクリートの水の「浮水の変化点」の状態における磁気による分子運動エネルギーを上回るより大きい磁気による分子運動エネルギーは、さらに「トランスマスター」装置により液体コンクリートの水に供給される状態になる。
 - (b) セメント粒子で建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面のあらゆる小さい隙間に侵入された液体コンクリートの水の分子だけは、飛び出て、液体コンクリートの水の分子にさらに与えられる磁気によって、より大きい分子運動エネルギーによってより大きい激しい分子運動によって建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面の外側に流れ出る。
 - (c) セメントの微粒子がそうであるすべては現状のまま建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面のすべてのギャップの中に残った、そして、時間が進むのに従って、液体コンクリートは現状のまま状況で固められる。
 - (d) したがって、建築用石材と小さな小石と鉄棒の表面と接触して固められるコンクリートの表面積が大いに増加するので、コンクリートの強度はより高くなる。
 - (e) 上述の通り、必要な液体コンクリートの水の最も少ない量だけが与えられるけれども液体コンクリートの「仕事の容易さ」が「トランスマスター」装置により水の繰り返し通過回数をコントロールすることによって確保されるので、従来のコンクリートを上回るより高い強さは現実化される。
 - (f) 同様に、コンクリートの二次製品は、前もって「トランスマスター」装置への水の繰り返し通過回数の適切な選択によって、欠陥部分なしで完全に生産されることができる。
- (E) 例えば「水を減少させる薬品」と「水を減少させる AE 薬品」の様なコンクリートの二次製品の製造ための化学薬品による環境汚染の防止について、
- (a) しかし、今日「水を減少させる薬品」や「水を減少させる AE 薬品」が広く液体コンクリートに混ぜられて、使われるので、環境汚染の拡大が心配されている。

- (b) 液体コンクリートの水の「トランスマスター」装置による通過が繰り返されるのに従って、液体コンクリートに加えられる「水を減少させる薬」と「水を減少させる AE 薬」は大いに減少することができるか、完全にさらに不必要になることができる。
- (c) したがって、「特殊な合成磁場」の使用技術による水は、コンクリートの二次製品に混ぜられる「水を減少させる薬品」と「水を減少させる AE 薬品」による環境汚染の防止に効果的である。
- (d) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水の効果は 4 0 ～ 5 0 時間の間ほぼ低下なしで保たれたあと、上記の「トランスマスター」装置による水の効果は素早く減少する。
- (e) したがって、時間が 4 0 ～ 5 0 時間過ぎたあと、水の特徴的変更は消される、そして、水は再び完全な従来の水に戻る、そして、同時に、「トランスマスター」装置での環境へのあらゆる影響は完全に消される。

第 7 節 ： 「特殊な合成磁場」の利用技術による水や空気により有機廃棄物からエタノールを発生させる事が出来る。

- (a) 更に、従来は、例えば防腐性材料と虫除けと滅菌剤の薬品による世界的な環境汚染は、考えられることができない水と空気による粘性の劇的な減少による、強い浸透能力と強い脱臭能力によって抑制されることができる。
- (b) あらゆる腐敗している有機物質によって腐敗の進行は、「特殊な合成磁場」の使用技術によって、水（または空気）の中で、すぐ止められることができる。
 - (b-1) それどころか、まだ残っている腐敗している有機物質は、分解されて、熱機関の燃料油として使われる役に立つエタノールになる。
 - (b-2) さらに、強い地球温暖化ガスであるメタンの発生は、また抑制されることができる。
- (c) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水または空気によって、嫌気性バクテリ

アは、選択的に、そして、自動的に殺菌される。

(c-1) そして強い活力と成長能力は、選択的に、自動的に、同時に平行して好気性細菌に与えられる。

(d) したがって、有機廃棄物が容器に入れられる活動だけによって構成される非常に単純な処理システムは、必然的に最も単純な構造として構成される。

(d-1) 機廃棄物は、水（または空気）の中で嫌気性菌による腐食が全く発生することができないので、すでに「トランスマスター」装置を通過した水に浸されるだけである。

(e) 「特殊な合成磁場」の使用技術によると、エタノールがメタンガスが発生することなく上記の非常に単純な処理システムで生産されることができるので、エタノールを生産する最も安い設備は提供されることができる。

(f) エネルギーがメンテナンスのためにほとんど必要とされないので、特に上記のエタノールの生産システムにおいては維持費は非常に安い。

第 8 節：農業分野への「特殊な合成磁場」の利用技術による水について、

(a) テスト例 (1)

(a-1) 好気性バクテリアが選択的に、そして、自動的に生命を与えられると同時に、嫌気性バクテリアが平行に選択的に、そして、自動的に抑制される能力が、利用される。

(a-2) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水は、動植物と環境の浄化のために使われる。

(a-3) 「特殊な合成磁場」による利用技術による水は水耕栽培に利用する水や液肥の腐敗防止のために利用される。

(b) テスト結果

(24)

- (b-1) 大学の園芸学部による「特殊な合成磁場」の利用技術による水によるテスト結果について、
- (b-2) それが、クレソンのような薬物野菜の効果的収穫高のために、そして、昆虫による損害の防止のために使われることができる。
- (c) 貯蔵施設について
 - (c-1) 「特殊な合成磁場」の利用技術による水は新鮮さの維持のために、そして腐敗防止のために利用される。

第9節：漁業分野への「特殊な合成磁場」の利用技術による水について、

- (a) テスト例 (2)
 - (a-1) 「特別な合成磁場」の使用技術による水による魚や甲殻類に養殖に関してはと水に残された餌による水の汚染は防止される、そして、例えば、腐敗バクテリアの様な嫌気性菌による病気もまた防止されることができる。
 - (a-2) さらにまた、魚と甲殻類の成長は強く促進されて、従来の魚と甲殻類より早くはるかに大きくなる、そして、産卵する時間は早くなる。
 - (a-3) そのうえ、通常卵を産まない環境にもかかわらず産卵を開始する現象が、発生する。

第10節：「Eオイラー」と「トランスマスター」装置による特性変化と効果について、

- (a) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水と空気が特に使われるとき、考慮されなければならない諸課題について、
 - (a-1) 磁気による分子の運動エネルギーが部分的でなく全体として水と空気に与えられるという状態は、「特殊な合成磁場」の使用技術によって最も大き

な影響を得るためには、基本的に考慮されなければならない。

- (a-2) 何ものにもまして、空気に関しては、「特殊な合成磁場」の使用技術により用いられる空気の量は空気が十分な影響を示すために前もって満たされる空間の広がりについて調査された結果によって適切に選ばれることは、最も重要である。
- (b) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水による効果について,
 - (b-1) たとえ有機質廃棄物が一定の期間の間に「特殊な合成磁場」の使用技術による水の中に残されたとしても、嫌気性バクテリアが水によって完全に機能を失うので、有機質廃棄物の腐敗の進行は完全に止められることができる。その結果、以後のメタンガスや不快臭が発生する事はない。
 - (b-2) 従ってたとえ特に食品のような有機質廃棄物がカバーなしのタンクに投げ込まれた状態のままであっても新たに空気中からタンクの中に飛込む嫌気性バクテリアは選択的に抑制され自動的に残存する有機質廃棄物の腐敗は全く進行する事はない。
 - (b-3) 同時に、新たにタンクの中に飛込む好気性の酵母菌等は選択的に強い活力と成長能力を与えられ自動的に、残存する有機質廃棄物が発酵し芳醇な香りのアルコールが生み出され得る。
- (c) テスト例 (3)
 - (c-1) 洗米に使用した水が 3 0 ℃の大気中に容器に入れられたまま放置された場合について
 - (c-2) 米を洗った水について、「E オイラー」による水が使われる試験結果は、「E オイラー」による水が使われない試験結果と比較される。
- (d) テスト結果,
 - (d-1) 「E オイラー」が使われないという状態がおよそ 1 週を過ぎたあと、米を洗った水面は完全に厚いカビ層でおおわれた。

- (d-2) 「Eオイラー」が使われた水によるテストでは、米を洗った水面で、少しのカビも起こらなかった、そして、それどころか、酒の甘い香りは起こった、そして最後に、エタノールになった。

(e) テスト例 (4) ,

- (e-1) 残飯の強烈な腐ったにおいては現状のまま「電磁空気清浄器」と共に封をされた。
- (e-2) その結果、磁気による電子エネルギーは「磁石列」によって構成される「電磁空気清浄器」の活動に起因する磁気誘導によって空気の原子に誘導された。
- (e-3) 上記のテストのための「電磁空気清浄器」の処分量が少ないので、テストは密封スペースで行われた。

(f) テスト結果,

- (f-1) 24時間経過後に、魚の腐ったにおいと残飯の野菜が完全に失われたあと、それどころか、「Shouyuソース」の甘い香気があるにおいては発生して、残飯に漂っていた。

(g) テスト例 (5) ,

- (g-1) 自然環境は汚染されて、すでに破壊された寺院の池の水の自然環境を復活させた「トランスマスター」装置の水による劇的な特性変化について、

(h) テスト結果,

- (h-1) 池の水は激しい悪臭が発生したという状態になった、そして、アオコは広く水の中で成長した、そして、上記の状態、池の環境は完全に破壊された。
- (h-2) したがって、「トランスマスター」装置を通過した池の水の量が増加したのにつれて、ヘドロによる池の悪臭は消えた、そして、アオコは池の底に沈殿して、茶色になって、死滅した、そして、その結果、水は明るさを回復し、

池の環境はついにおよそ 1 ヶ月で回復された。

- (h-3) そのため魚は池で大いに育った、エビの様な甲殻類も増やされ産卵も確認され更に嫌気性菌による病気は防止され水生植物と水生昆虫も発生し自然は完全に回復した。
- (h-4) 上述の通り「トランスマスター」装置による水によって、嫌気性の、アオコのような生きものと蚊の幼虫は自動的に選択的に抑制される、そして、酸素を使う生きものは同じ時刻に自動的に選択的に大いに育てられた。

第 1 1 節：「特殊な合成磁場」の使用技術による水が特に浴槽水に使われるとき、

(a) テスト例 (6)

- (a-1) 「特殊な合成磁場」の使用技術による浴槽のお湯が従来のお湯が全然透過することができない人体のあらゆる表面のあらゆる微細なエアギャップに深く入りこむことができるので、浴槽の熱い温水と人体のあらゆる表面と接触している面積は大いに増やされる、その結果、より暖められる事による人体の健康効果は非常に顕著である。
- (a-2) さらに、石鹸水は大いに泡立つ、そして、シャンプーのくしの動きは浴槽で温水の粘性の大きい減少によって非常に円滑になった。
- (a-3) 「トランスマスター」TMH-1 タイプが使われるとき、「トランスマスター」装置を通過した 1 つの限られた通過回数だけによる浴槽の温水が使われなければならない
- (a-4) 人体が直接浴槽で温水と接触しているとき、「トランスマスター」装置に起因する浴槽の温水への人体の敏感な肌は過度に影響されるかもしれない。
- (a-5) 激しい刺激で通常の浴槽で従来温水に浸ることができないアレルギー疾患にかかっている患者が上記の「トランスマスター」TMH-1 タイプによって浴槽の温水に浸るとき、患者の皮膚への刺激がほとんど感じられなくて、それどころか、快適であると感じられて、ほぼ毎日浴槽の温水に浸ることがで

きたので、患者の状態は大いに改善された。

- (a-6) 「トランスマスター」 TMH-1 タイプでの浴槽の温水によって人体の皮膚のすべてのギャップまで暖められるので、人体が浴槽の温水から去った直後に、人体は考えられないほど大いにたっぷり汗をかく。
- (a-7) さらにまた、浴槽の水の排水によって、嫌気性菌、藻、排水パイプの内部に固着されたさ錆の障害物は排水パイプの内部から取り除かれる、その結果、広い地域の排水溝は社会的に全体として清掃される、そして、浴槽の水の排水によって、シャワーは正常化され、維持されることができる。
- (a-8) 「トランスマスター」 装置による水の効果はほぼ30～40時間継続する。
- (a-9) 「トランスマスター」 TMH-1 型による水は原則として飲用してはならない。

第12節：「特殊な合成磁場」の利用技術による空気による「電磁空気清浄器」の特性と効果 について、

(a) テスト例 (7)

- (a-1) 空気の分子の磁気による大きい運動エネルギーが「電磁空気清浄器」を通過した通過回数によって与えられるので、空気の分子の磁気による大きい運動エネルギーは任意に増やされることができる。
 - (a-2) したがって、従来のテクノロジーと科学によって考えられることができないくらい大きい物理的に次元の異なる新しい劇的な特特性は、確実に「電磁空気清浄器」によって空気に発生させることができる。
- (b) 特に「特殊な合成磁場」の使用技術による空気の必要な考慮のための事項について、
- (b-1) 「特殊な合成磁場」の使用技術による空気に関しては、スペースの広がり和使用スペースの密封条件を調査することは、空気の特徴的変更に決定的な影響を与えるために「電磁空気清浄器」を通過する空気の量によって決定され

なければならない。

(c) 「電磁空気清浄器」のシックハウスに対する効果について、

(c-1) テスト例 (8)

(c-2) 「特殊な合成磁場」の使用技術の空気によって、有害な化学合成物質の刺激臭は消臭されて、無害になる。

(c-3) 「特殊な合成磁場」の使用技術による空気によって、殺虫剤と消毒剤と接着剤と殺菌剤から（例えばホルマリンとクレゾールとトルエンとシンナー）発生する強烈な危険な刺激性のにおいを持っているガスは、分解されて、除去される。

(d) 化学薬品と一般的なゴミに対する「電磁空気清浄器」による気密空間における影響について、

(d-1) テスト例 (9)

(d-2) ホルマリンのようなイライラさせる匂いとゴミのための専用車両の内部の悪臭は、完全に取り除かれる。

しかし、ゴミのための専用車両の内部では、甘いにおいは、「特殊な合成磁場」の使用技術による空気の量の不足に起因する脱臭作業の後に残されるかもしれない。

(d-3) 上記の甘い臭いは刺激臭や腐敗臭の臭い分子が分解されていく過程で発生する窒素分子による中間物質の臭いであると考えられる。

(d-4) 脱臭作業の後、時間が過ぎるのに従って、上記のにおいは更なる分解の進行によって完全に消える。

(e) 「電磁空気清浄器」の空気による体感の影響について、

(e-1) テスト例 (1 0)

- (e-2) 「特殊な合成磁場」の利用技術により空気に与えられる大きい磁気による分子運動エネルギーの増大により空気の粘性は劇的に低下する. その結果、空気の強い浸透機能が発生する。
 - (e-3) したがって、車のクーラーで冷却されている空気が「特殊な合成磁場」の使用技術によって人体の表面のすべての微細なギャップに深く入りこむことができるので、実質的にクーラーで冷却されている空気と接触している人体の表面の面積は大いに増加する。
 - (e-4) 従って、車の内部の体感温度が従来の温度より低く下げられることができるので、前もって車のクーラーでセットされる温度は従来の温度より低い温度で使われることができる。
 - (e-5) 通常、車のクーラーでの燃料消費の量は特に大きい、したがって、「特殊な合成磁場」の使用技術による空気によって、車の燃料消費の量は減少し燃料油は節約される。
- (f) 「電磁空気清浄器」による空気の特性について、
- (f-1) テスト例 (1 1)
 - (f-2) 脱臭が従来の脱臭技術によって特に難しいとき、「特殊な合成磁場」の使用による空気によれば確実に完全に消臭されることができる。
 - (f-3) 同様に、車のような気密のスペースでは、ガソリンと新しい合成皮革とエポキシ樹脂のにおいは、完全に確かに消臭されることができる。
 - (f-4) 同様に、脱臭が棺の内部の死体の腐敗した臭いと線香の臭いのような従来の消臭装置では非常に難しい臭いは、完全に確かに消臭されることができる。
 - (f-5) 同様に、脱臭が動物に、そして、タバコに、そして、老人に発生する悪臭のような従来のデオドラント装置で非常に難しいにおいは、完全に確かに消臭されることができる。
 - (f-6) 薬品の倉庫と特に脱臭のための薬品の倉庫の内部で発生する刺激性の臭い

(31)

の脱臭がどんな従来の消臭装置でも不可能であるにも拘らず、「電磁空気清浄器」によれば、上記の脱臭は完全に確かに消臭されることができる。

(f-7) 「電磁空気清浄器」による花粉の除去能力に関しては、屋内の空気の劇的な粘性減少により空中で浮いている花粉の浮力が失われる、そして、花粉が床表面に落ちると考えられる。

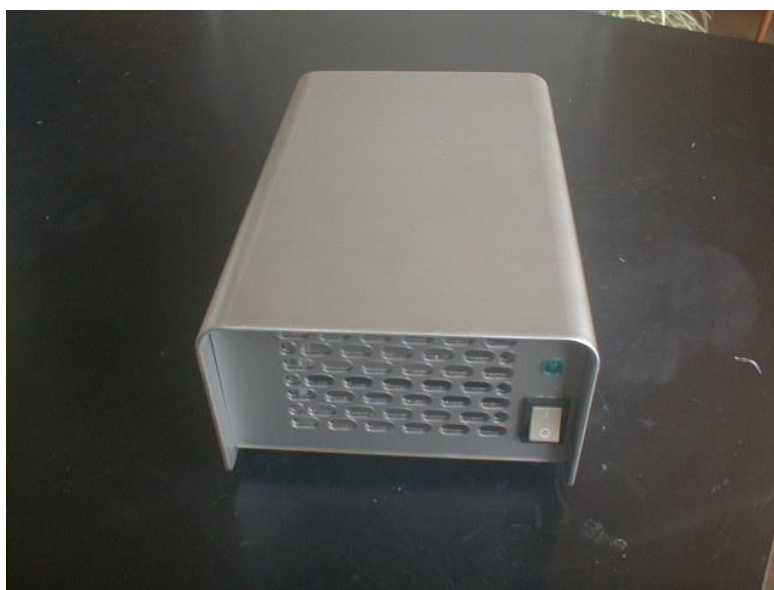
(g) 自然材料に起因する自然の嗅いは強調される、そして、好気性細菌に起因する有益な発酵はより早く進行する。

(g-1) たとえば、自然材料は、ニンニク、または納豆、またはシリコンまたは木である。

(h) 上述の通り、来の技術と科学によって考えることができないくらい役に立つ現象と結果を生むことができるので、燃料油または水または空気についての「特殊な合成磁場」の使用技術は広く新しい産業を構築することができる起動力になることができる。

下記は、「特殊な合成磁場」の使用技術による「電磁空気清浄器」の写真である。

「電磁空気清浄器」は永久磁石による磁石列を構成する「特殊な合成磁場」により構成されている。



第 1 3 節：「特殊な合成磁場」の利用技術による水によるその他のテストにおける効果について、

(a) テスト例 (1 2)

(a-1) 廃水の脱臭と食品例えば麺または豆腐を加工することによって発生する廃水の腐敗の防止について。

(a-1-1) 処理廃水に関しては、特に豆腐のタンパク質の嫌気性バクテリアは殺菌される、そして、腐敗することは止められる、そして、その結果、悪臭は消える、そして、灰色がかった処理廃水は一時的に淡い青に変わる。

(a-1-2) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水によると、淡い青は中間物質の色である、そして、豆腐のタンパク質が分解されるのに従って、それは発生する。

(a-1-3) さらに、豆腐のタンパク質の分子は、より小さな分子に分解されて、「E オイラー」によって廃水の処理によって消される。

(b) 薬品に依存することのない生きものの細胞の増殖能力の増加について。

(b-1) 実施テスト例

(b-2) 動植物の健康の維持のための方法について、そして、動植物のための増殖能力の改善について。

(b-3) 野菜と魚肉の新鮮さを保つ方法について、

(b-4) 人体の皮膚を洗うことによって健康を維持する方法について、

(c) 劇的に減らされている水の粘性に起因する強い浸透能力と強い除去能力について。

(c-1) テスト例 (1 3)

(c-2) 「トランスマスター」装置によれば、パイプとボイラーの内壁に付着してい

る錆やシリカは薬品を使うことなく除去されることができる、さらに、嫌気性菌の粘着物とパイプの内壁に付着している薬の滓は除去されることができる。

(c-3) 薬品を使うことのない「特殊な合成磁場」の使用技術による冷却水によると、熱交換器とポンプと冷却塔は、冷却水例えば錆やパイプの内部に付着した嫌気性菌の粘着物や藻の流れの障害物質を一掃することによって回復されることができる。

(c-4) 上述の通り、「特別な合成磁場」の使用技術によれば、排水パイプの回復とすでにふさがれる排水溝は、簡単で現実化される。

(d) メッキと塗装と印刷のための前処理について、

(d-1) テスト例 (1 4)

(d-2) 「特殊な合成磁場」の使用技術による水によると、塩化ビニルとトリクロロエチレンのような有害な薬に依存しない印刷できるエレクトロニック・ボードと精密な部品と電子部品は、完全にきれいに洗い流されることができる。

(d-3) 同様に「特殊な合成磁場」の使用技術による水によれば、メッキのために、そして、コーティングのために、そして、印刷のために前もって洗われなければならない各々の製品は、完全にきれいに洗い流されることができる。

(d-4) 「特殊な合成磁場」の使用技術の水によると、水だけによる洗濯は、あらゆる洗剤なしで可能であるかもしれない。

(e) 「トランスマスター」装置で色ムラを一掃することについて、

(e-1) 染色メーカーによるテスト

(e-2) クリーニング工場で、混合タンクのまわりでくっつけられて、固められた化学薬品がどうしても昔から取り除かれることができなかったけれども、「トランスマスター」装置での水によれば、それは完全に 48 時間以内に取り除かれることができた。

(e-3) 染色の後、色の不規則性は、消えた、そして、「トランスマスター」装置の使用技術の水によって、顕微鏡の使用にもかかわらず発見されなかった。

(f) 染色工場で利用されている防水型のボールベアリングの再生について

(f-1) 染料タンクの染料水の中のカルシウムは日本工業規格によるステンレス鋼によって製造される高価なボールベアリングの回転部分に侵入する、そして、侵入されたカルシウムは回転部分で結晶化する、そして、その結果、ボールベアリングの回転部分の能力は無くなる。

(f-2) しかし、「トランスマスター」装置による水により、ボールベアリングの中のカルシウムの結晶は、確実に分解されることができて、徐々に除去される。

(f-3) 通常、高価なボールベアリングの回転部分は特に正確な機械で正確に加工される、そして、ボールベアリングの回転部分の空隙は通常 1 ミクロン単位の高度な正確さを持っている。

(f-4) したがって、「トランスマスター」装置が、染色工場ですでに壊れた高価なボールベアリングの回転部分の再生装置として実用されている。

(f-5) 上述の通り、「特殊な合成磁場」の使用技術による水によれば、染物工場、現象や結果が従来の技術と科学によって合理的に考えられることができないくらい劇的に発生するということはすでに証明された。

(g) ペンキの強度さとコーティング材料の寿命の改善について

(g-1) テスト例 (1 5)

(g-2) コーティング物質の種類または錆防止のためのペンキに関係なく、「特殊な合成磁場」の使用技術によるコーティング物質の溶媒は従来のコーティング物質の溶媒が侵入することができない金属と材木の表面のあらゆる微細なギャップに完全に侵入することができる。

(g-3) 従来の金属と材木によるコーティング物質の接触している面積が増やされるので、従来の金属と材木の表面によるコーティング物質の接着力は非常に

(35)

高められる、そして、コーティング物質の寿命はより長くなる。

(h) 腐りかけの麺と豆腐に起因する工場の廃水による不快なにおいの脱臭について、

(h-1) テスト例 (16)

(h-2) 麺と豆腐の生産のための方法で発生している廃水に起因する工場から発生している腐敗させている不快なにおいは、「特殊な合成磁場」の使用技術による水で完全に消臭されることができる。

以上

2016年 3月30日

〒929-1171

住所：石川県かほく市木津二 160-2

米出達雄

ホームページ：<http://www.vaporization-energy.com/>

メール：wxdxn7493000@ybb.ne.jp